

パラオは日本の南、約3200キロに位置する島しょ国家で、かつて日本の委任統治領だった関係から現在でも親日であり、日本からも毎年多くの観光客が訪れる。パラオ国際空港（正式名「ロマン・トゥメトゥール国際空港」）は、同国最大の島バベルダブ島に位置し、観光業を主産業とする同国唯一の国際空港として重要な役割を担っている。

同空港の既存ターミナルビルは、2003年に国際協力機構（JICA）の無償資金協力により建設され、以来20年余り同国の観光振興に貢献してきた。旅客数の増加に伴い、空港施設および機能を再整備する必要が生じ、新ターミナルビルの建設と既存ターミナルビルの改修が計画された。

本計画は双日、日本空港ビルデング、海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）の3社とパラオ政府が発注者となり、JICAの海外投融資を活用、設計・施工を大成建設が担当し、

海外建設協会

プロジェクト便り

◆パラオ

パラオ国際空港ターミナルビル新設・改修

発展に寄与する「地図に残る仕事。」

大成建設

日本が支援するインフラ整備としては太平洋島しょ国で初となる官民連携（PPP）事業だ。空港建設・運営・維持管理を「オールジャパン」で取り組む、パラオと日本のパートナーシップを象徴する事業でもある。

新ターミナルビルの建設工事は、パラオではあまり例のない鉄骨造の建造物のため、施工経験のある作業員が不足してい



た。また既存ターミナルビルの改修工事では、国際空港としてのセキュリティ機能を維持しつつ、空港オペレーションを阻害しないことなど施工上の課題があった。加えて、19年4月の着工から1年経過後には新型コロナウイルスがまん延し、国境封鎖など厳しい防疫措置の実施によって人や物資の動きが大きく制限され、工事進捗（しんちよく）への大きな影響が懸念された。

当社は綿密な工程・工事計画に基づいた調達・施工に取り組み、空港オペレーションを阻害することなく工事を遂行した。また、日本から派遣した指導員による技術・安全指導により、作業員の経験不足を補うとともに、同国の施工水準向上に寄与することができた。

拡張した新ターミナル棟。パラオの国旗をモチーフとしたパラオカラーとなっている。

運行阻害せず無事故で工事遂行

5月に開いた新ターミナルの開業式典（中央の左側がウィップス大統領、右側が林外務大臣）



ウィップス大統領、日本から林芳正外務大臣をはじめとした両国関係者が出席し、開業式典が開かれた。

既存ターミナルから出発機能を移管した新ターミナルでは、パラオの美しい自然を象徴する「パラオブルー」や「ロックアイランド」をモチーフとしたデザイン、パラオの海で見ることでできる海洋生物を取り入れた旅客誘導サインなど、全ての利用客がパラオの雰囲気を感じられるような工夫が随所に施されている。

また、インラインスクリーニングシステムやチェックインカウンター共用システムなど、新規設備の導入により、空港の運用効率が大幅に向上された。さらに到着専用ターミナルに改修された既存ターミナルと新ターミナルの連絡通路にはスロープを配備するなどユニバーサルデザインにも配慮しており、利用客の利便性向上が期待される。

本プロジェクトは、質の高い航空インフラ事業として、パラオのさらなる発展に寄与する「地図に残る仕事。」であると確信している。

（執行役員国際支店副支店長 建築・馬場正道）